

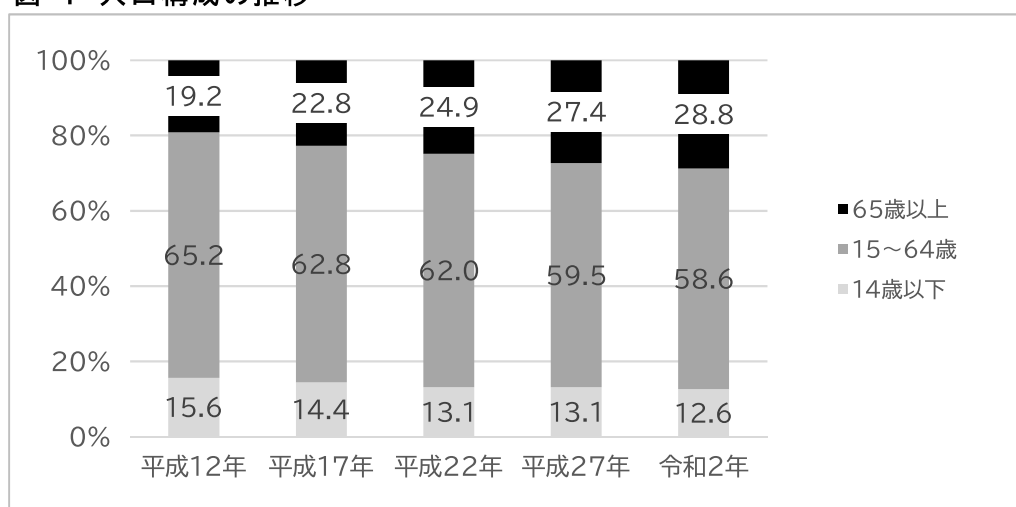
第 2 章 中札内村の現状

1. 人口の状況

(1) 人口構成の推移

村の人口構成は、年齢階層別人口でみると、14 歳以下の年少人口と 15～64 歳の生産年齢人口は徐々に減少傾向にあり、65 歳以上の人口は徐々に増加傾向となっています。(図 1)

図 1 人口構成の推移



資料：国勢調査(総務省統計局)

(2) 人口と世帯数の推移

村の人口は増減を繰り返していますが減少傾向にあり、高齢化率は年々上昇しています。また、世帯数は増加傾向にあります。(表 1)

表 1 人口、世帯数、高齢化率の状況

	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
総人口	3,913 人	3,881 人	3,919 人	3,908 人	3,859 人
男	1,904 人	1,878 人	1,894 人	1,899 人	1,863 人
女	2,009 人	2,003 人	2,025 人	2,009 人	1,996 人
世帯数	1,873 世帯	1,872 世帯	1,921 世帯	1,906 世帯	1,923 世帯
高齢化率	28.8%	29.1%	29.2%	29.7%	29.8%

資料：中札内村住民基本台帳に基づく人口(各年度 3 月 31 日現在)

(3)人口動態

自然動態^{※5}は、いずれの年も出生数が死亡数を下回り、減少が続いています。社会動態^{※6}は令和2年より転入超過となり、増加が続いています。人口動態としては、減少傾向です。(表2)

表2 人口動態の推移

		H30	R1	R2	R3	R4
自然動態	出生	20人	26人	25人	29人	25人
	死亡	48人	38人	43人	41人	46人
	増減	△28人	△12人	△18人	△12人	△21人
社会動態	転入	178人	224人	181人	192人	233人
	転出	190人	213人	158人	189人	223人
	増減	△12人	11人	23人	3人	10人
人口動態	増減	△40人	△1人	5人	△9人	△11人

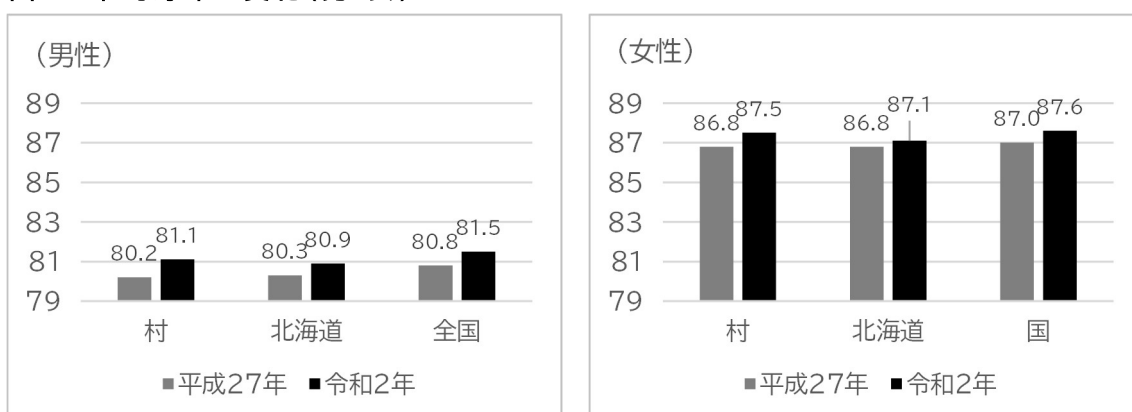
資料：住民基本台帳(総務省)(各年1月1日～12月31日計)

(4)平均寿命^{※7}

令和2年の平均寿命は、男性81.1歳、女性87.5歳で、いずれも北海道平均を上回り、女性では全国平均と同程度となっています。

平成27年と令和2年を比較すると、男女とも平均寿命は延伸しています。

図2 平均寿命の変化(男・女)



資料：令和2年市区町村別生命表の概況(厚生労働省)

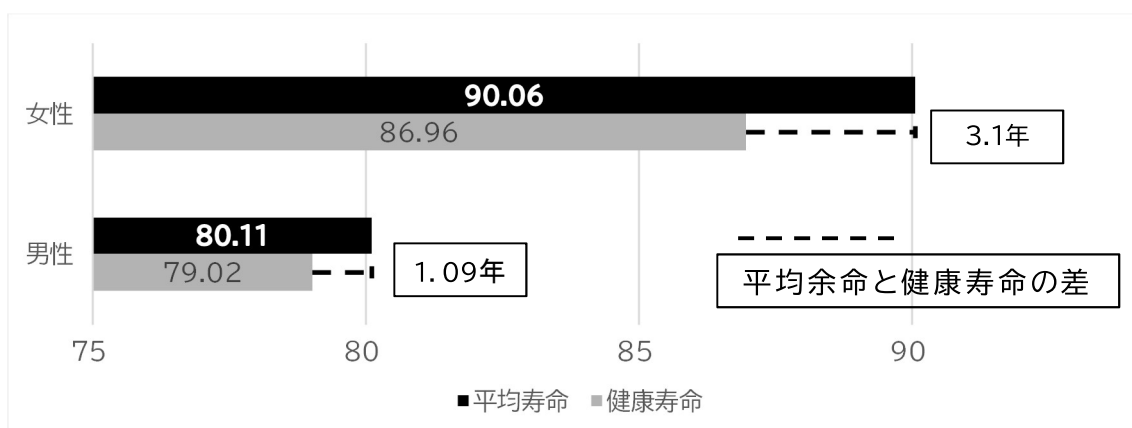
(5)健康寿命

人生の中で健康で障がいのない期間(介護を要しない期間)を示す「健康寿命」は、男性 79.02 歳、女性 86.96 歳となっています。

平均余命^{※7}(令和 4 年の 0 歳を基準に算定)と健康寿命の差は、女性では 3.1 年、男性では 1.09 年となっています。

今後も健康寿命の延伸を目指す取り組みが求められています。

図3 平均余命と健康寿命の差



資料：北海道健康増進計画(すこやか北海道 21、資料 3、市町村別健康寿命)

(6)合計特殊出生率

合計特殊出生率^{※8}について、全国・北海道ともに減少しています。村では、平成 29 年に前年を下回りましたが、直近の令和元年では増加に転じています。

表 3 合計特殊出生率

	H28	H29	H30	R1	R2
村	1.45	1.39	1.39	1.45	1.40
出生数	24人	27人	19人	26人	25人
北海道	1.29	1.29	1.27	1.24	1.21
全国	1.44	1.43	1.42	1.36	1.34

資料：第7期中札内村まちづくり計画 人口動態調査

※村の合計特殊出生率のみ、人口動態調査の出生数と住民基本台帳の女性人口を用いて算出

2. 死亡の状況

(1)主な死亡原因

令和元年人口動態調査では、全国・北海道で悪性新生物(がん)が第1位でしたが、村では老衰が第1位となっています。脳血管疾患については、全国・北海道と比較し高い値となっています。

表 1 主な死亡原因

	村		北海道		全国	
	死 亡 原 因	死亡率(10万対)	死 亡 原 因	死亡率(10万対)	死 亡 原 因	死亡率(10万対)
1 位	老 衰	255.3	悪性新生物	372.8	悪性新生物	304.2
2 位	悪性新生物	229.8	心 疾 患	183.8	心 疾 患	167.9
3 位	脳血管疾患	127.6	脳血管疾患	92.2	老 衰	98.5
4 位	心 疾 患	102.1	肺 炎	86.4	脳血管疾患	86.1
5 位	肺 炎	76.6	老 衰	84.4	肺 炎	77.2

資料：十勝地域保健情報年報(令和2年版(令和元年度実績))

(2)標準化死亡比(SMR)の状況

全国と比較した標準化死亡比(SMR)^{※9}をみると、男性の「悪性新生物」によって死亡する割合が有意に高くなっています。

また、悪性新生物については、男性、女性の「胃がん」、男性の「肺がん」、女性の大腸がん、子宮がん、乳がんが高くなっています。

「自殺」は男性が高くなっています。

表 2 標準化死亡比(SMR)の状況 …年齢構成の違いの影響を除いて、死亡率を全国と比較したもので、全国平均を100として比較。

	悪性新生物		脳血管疾患		心疾患				腎不全		肺炎		自殺	
	男	女	男	女	男	女	虚血性心疾患		男	女	男	女	男	女
							男	女						
村	123.4*	107.9	88.2	81.4	83.2	54.9	89.7	98.4	39.5	87.7	79.3	56.9	168.1	47.9
北海道	110.1	111.9	96.1	92.1	96.7	99.3	80.7	82.4	127.2	129.2	99.9	95.6	103.5	102.5

※ *…有意水準5%(村のみ記載)

	胃がん		食道がん		肺がん		大腸がん		肝臓がん		すい臓がん		胆嚢がん		子宮がん	乳がん
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	女	女
村	149.8	135.1	65.2	0	139.1	109.1	97.4	113.5	100.2	96.6	135.6	120.7	153.9	199.8	184.8	127.6
北海道	98.6	98.8	106.5	116.8	119.0	127.5	108.2	112.4	100.1	96.2	120.8	125.4	116.4	111.1	103.9	110.3

資料：北海道健康づくり財団、北海道における主要死因の概要 10、平成25年～令和4年

(3) 65 歳未満の死亡

平成 29 年～令和元年の 3 年間の村の総死亡数は 138 人でその内、65 歳以下の死亡数の占める割合は、10.1%を占めています。

男性では悪性新生物が最も多く、女性は悪性新生物、肺炎、その他が同数でした。

表 3 65歳未満の死亡の状況

	男 性		女 性	
	人 数	割合	人 数	割合
悪 性 新 生 物	4 人	36.4%	1 人	33.3%
心 疾 患	2 人	18.2%	0 人	0.0%
脳 血 管 疾 患	0 人	0.0%	0 人	0.0%
肺 炎	0 人	0.0%	1 人	33.3%
不 慮 の 事 故	1 人	9.1%	0 人	0.0%
自 殺	1 人	9.1%	0 人	0.0%
そ の 他	3 人	27.3%	1 人	33.3%
計	11 人	100%	3 人	100%

資料：十勝地域保健情報年報(平成 30 年～令和 2 年度版)

3.国民健康保険の状況

(1)国民健康保険被保険者の状況

村の人口は、令和 3 年 3 月 31 日現在で 3,965 人(KDB 上のデータ、住基上とは異なる)、その中で、国民健康保険(以下、国保)の被保険者数が 983 人(総人口の 24.8%)であり、年齢構成では、「65 歳以上」の被保険者が 36.4%と多く占めています。

また、北海道、全国、同規模保険者(国)と比較して、被保険者の平均年齢が低く、「0 歳以上 40 歳未満」の割合が多いことも特徴です。

表 1 国保被保険者の構成比較

	村	北海道	全国	同規模保険者
被 保 険 者	983人	1,069,960人	25,855,400人	731人
65-74 歳	36.4%	47.7%	44.7%	47.2%
40-64 歳	37.7%	31.1%	31.7%	31.8%
0-39 歳	25.8%	21.2%	23.6%	21.0%
加 入 率	24.8%	20.0%	20.6%	25.7%
平 均 年 齢	51.4歳	55.0歳	53.7歳	54.8歳

資料 : KDB※¹⁰ 帳票 S21_001 及び S21_003、令和 3 年度(累計)

※ 同規模保険者とは、全国における人口5,000人未満の保険者をいう。

(2)国民健康保険医療費の状況

国保の 1 人あたり医療費(月平均)は、平成 29 年度から令和 3 年度にかけて、入院と外来の合計で約 1,800 円増加しており、全国に次いで高い値で増加しています。

入院医療費については、他と比較しても急激な増加となっています。また、外来医療費は微増していますが、伸び率としては北海道内同規模自治体に次いで低い値となっています。

表 2 国保 1 人あたり医療費(月平均)の推移と比較

		村	北海道		全国	
				同規模保険者		同規模保険者
入院	平成29年度	7,877円	13,364 円	12,694 円	10,764 円	12,658 円
	令和 3 年度	9,316円	13,666 円	12,903 円	11,480 円	13,203 円
	増 減	1,439円	302 円	209 円	716 円	545 円
	伸び率	18.3%	2.3%	1.6%	6.7%	4.3%
外来	平成29年度	13,254円	16,376 円	15,703 円	15,826 円	15,569 円
	令和 3 年度	13,618 円	17,248 円	15,838 円	16,990 円	16,287 円
	増 減	364 円	872 円	135 円	1,164 円	718 円
	伸び率	2.7%	5.3%	0.8%	7.4%	4.6%
合計	平成29年度	21,131 円	29,740 円	28,397 円	26,590 円	28,226 円
	令和 3 年度	22,934 円	30,914 円	28,741 円	28,470 円	29,490 円
	増 減	1,803 円	1,174 円	344 円	1,880 円	1,264 円
	伸び率	8.5%	3.9%	1.2%	7.1%	4.5%

資料 : KDB 帳票 S21_001 及び S21_005、平成29年度及び令和 3 年度(累計)

※ 1 人あたり医療費は、月平均である。また、歯科医療費を除く。

4. 介護保険の状況

(1) 要介護(要支援)認定者数

介護保険の認定者数は、令和 3 年度末現在 216 人で、平成 29 年度末の 190 人と比べると 26 人増加しています。

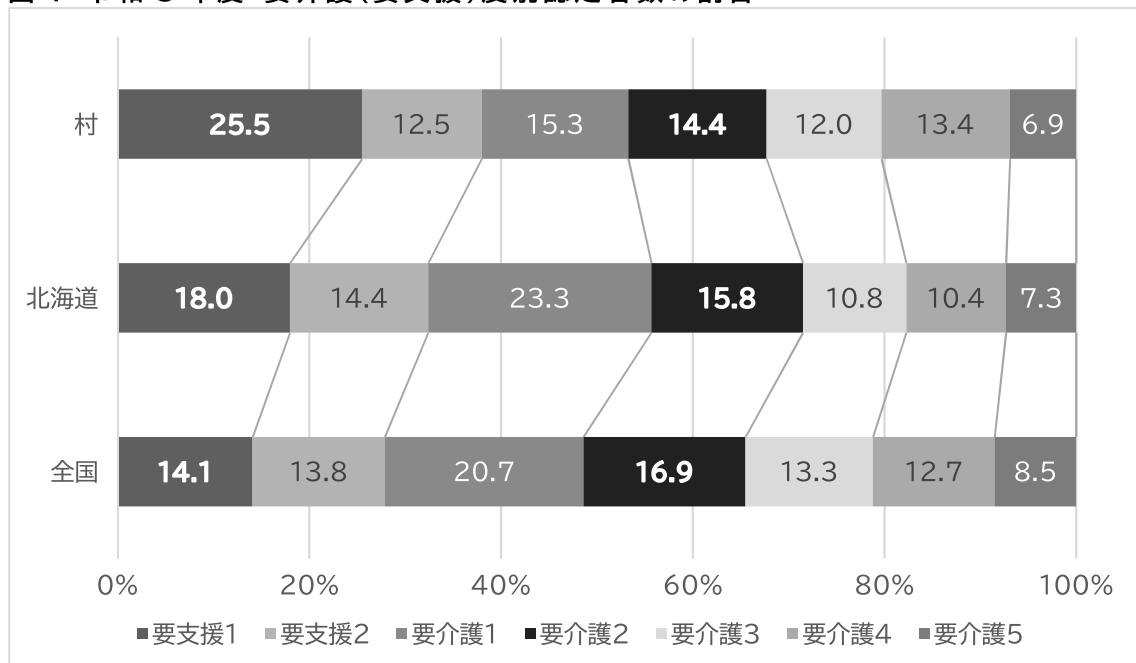
令和 3 年度 要介護(要支援)度別認定者数の割合をみると、村は、全国・北海道と比較して、要支援 1 の割合が高い傾向にあります。

表 1 要介護(要支援)認定者数の推移

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
平成 29 年度	36 人	24 人	39 人	31 人	27 人	19 人	14 人	190 人
平成 30 年度	39 人	26 人	37 人	29 人	34 人	15 人	16 人	196 人
令和 元 年度	37 人	32 人	33 人	32 人	33 人	17 人	16 人	200 人
令和 2 年度	42 人	32 人	36 人	29 人	32 人	26 人	15 人	212 人
令和 3 年度	55 人	27 人	33 人	31 人	26 人	29 人	15 人	216 人

資料：介護保険事業月報(各年度末現在)

図 1 令和 3 年度 要介護(要支援)度別認定者数の割合



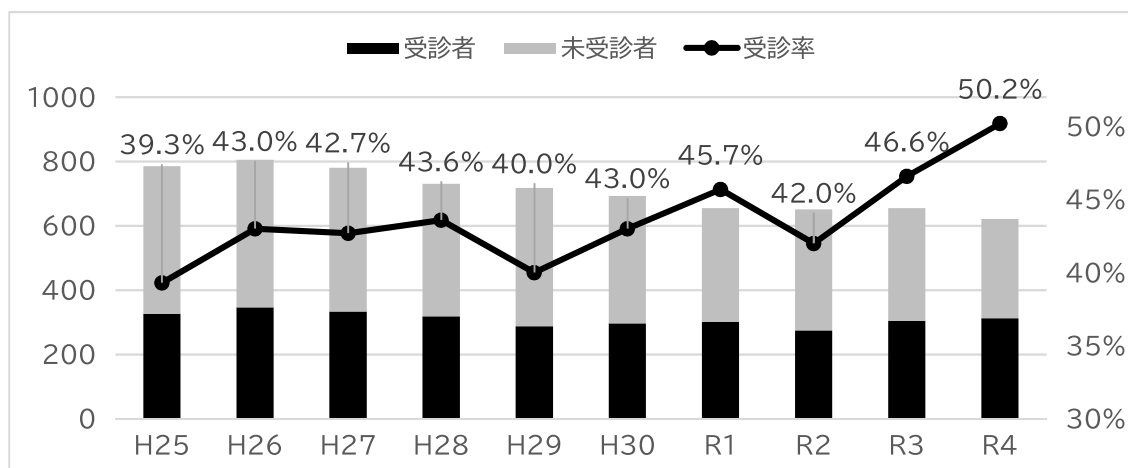
資料：令和 3 年度介護保険事業状況報告(年報)

5. 各種健診・検診の状況

(1) 国保特定健康診査の状況

国保特定健康診査^{※11}の受診率は、平成29年度から増減を繰り返していますが、近年では前計画期間と比較し、高い水準で推移しています。

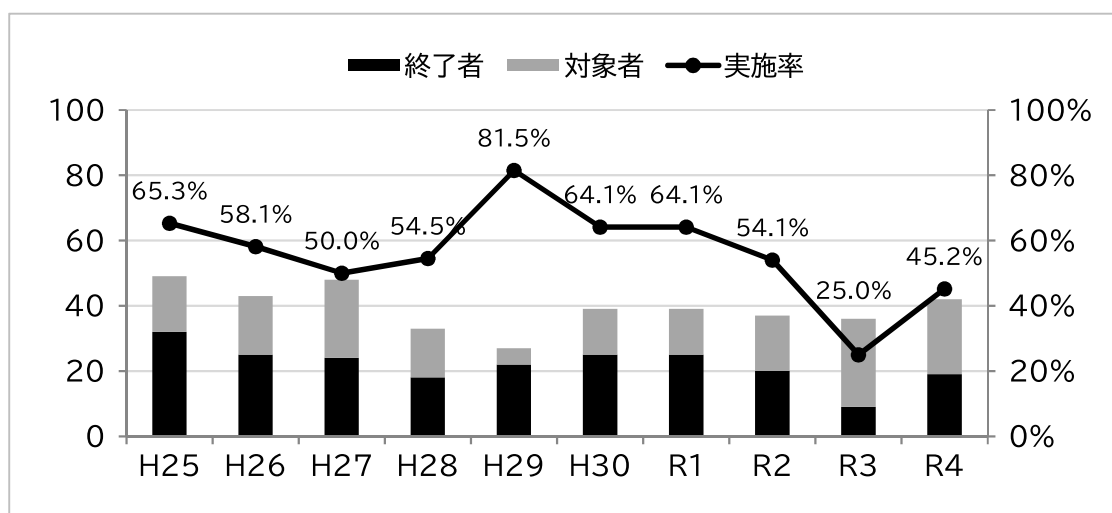
図1 国保特定健康診査の状況



(2) 国保特定保健指導の状況

国保特定保健指導^{※12}の実施率については、平成29年度から減少傾向ですが、直近では増加がみられています。

図2 国保特定保健指導の状況



(3) 性別のメタボリックシンドローム該当者・予備群の推移

メタボリックシンドローム※¹³の状況について、「メタボリックシンドローム予備群」は、北海道、全国、同規模保険者より割合が高くなっていますが、「メタボリックシンドローム該当者」「非肥満高血糖者」は低い割合となっています。

また、予備群では「血圧のみ」「脂質のみ」の割合が高く、該当者では「血糖・脂質」の割合が高くなっています。

表 1 メタボリックシンドロームの状況の比較

	村	北海道	全国	同規模保険者
腹囲のみ	4.9%	-	-	-
メタボリックシンドローム予備群	14.8%	11.0%	11.2%	12.2%
血糖のみ	0.3%	0.6%	0.6%	0.7%
血圧のみ	11.1%	7.9%	8.0%	8.8%
脂質のみ	3.3%	2.5%	2.6%	2.7%
メタボリックシンドローム該当者	17.0%	20.5%	20.6%	22.2%
血糖・血圧	2.3%	2.9%	3.1%	3.7%
血糖・脂質	1.6%	1.0%	1.0%	1.2%
血圧・脂質	6.9%	9.8%	9.8%	9.9%
血糖・血圧・脂質	6.2%	6.8%	6.8%	7.5%
非肥満高血糖	6.2%	8.5%	9.5%	9.4%

資料：KDB 帳票 S21-001(令和3年度累計)

(4) 特定健診結果からみる有所見者の状況

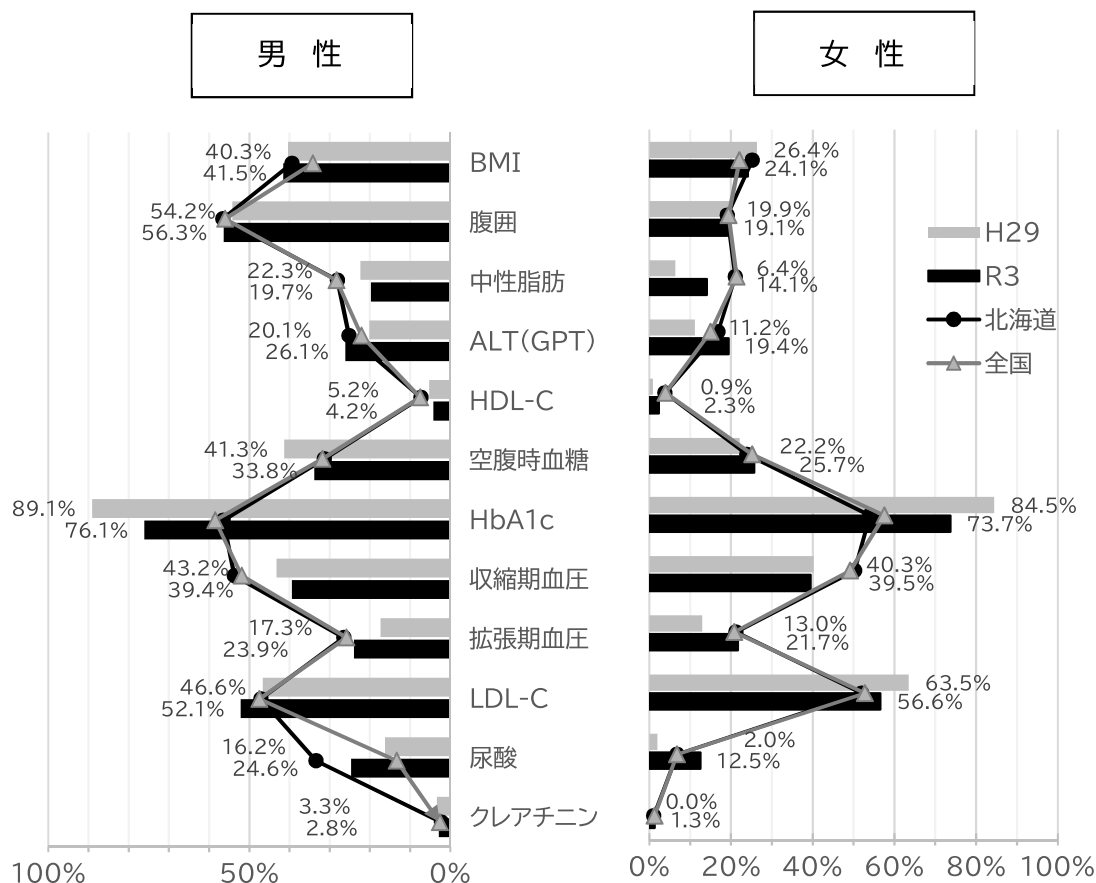
有所見者(保健指導値超)の状況では、平成 29 年度から令和 3 年度にかけて男女ともに「ALT(GPT)」「拡張期血圧」「尿酸」の割合が増加しています。

男女別でみると、「中性脂肪」「空腹時血糖」において、男性では減少傾向ですが、女性では割合が増加しています。

「LDL-C」では、男性が増加傾向、女性は減少傾向となっています。

「HbA1c」については平成 29 年度から令和 3 年度にかけて大きく減少していますが、依然として全国・北海道と比較して割合は高くなっています。

図 3 特定健診結果の項目別有所見順位



資料 : KDB 帳票 S21_024、平成29年度及び令和 3 年度(累計)、年齢調整済み

※ 全国、北海道については、令和 3 年度(累計)である。

※ 各検査項目の説明は、計画用語集の14~24 を参照。